

CIR Insights

Vol.

0

〔東北大学生・教職員のための教育データレポート〕

創刊号

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教育評価分析センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41 / Tel: 022-795-4961(DI) / Fax: 022-795-7669

E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp / http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

教育評価分析センター(Center for Institutional Research: CIR)は、高度教養教育・学生支援機構の下にある、11の業務センターの一つとして2014年4月に誕生しました。

〔CIR Insights〕は、CIRが蓄積している各種データや実施した調査の結果をわかりやすくタイムリーに紹介し、単位取得だけではなく目的を持った履修および学習行動の促進や各部局での教育活動の改善につなげてもらうことを目的に創刊されました。学内に点在する教育・学習活動にかかわるデータを意味ある情報に転換し、本学の教育学習活動の改善や質保証に活かせるよう提供していきます。春夏秋冬と年4回の発行で、以下のテーマを取り上げていく予定です。



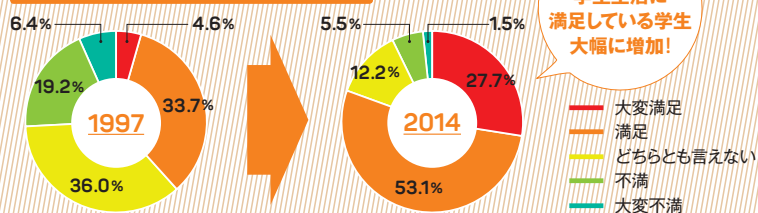
Vol.1〔2017年春号〕 学生生活編 (4月中旬公開予定)

東北大学生の学生生活はこの20年でどれくらい変わった?!
卒業生が学生時代に身につけておきたかったと考える力ってどんなもの?



〔CIR Insights〕Vol.1では、イラストやインフォグラフィックスを用いて、学生生活調査の結果から、新1・2年生が生まれた頃と比較して、変化したものと変化していないものを明らかにします。また、近年実施している学修成果調査の結果から、卒業時の学生が東北大学での学びについて、何をどのように感じているのかを紹介します。

例えば…… 大学生生活の満足度



今後の予定

Vol.2〔夏号〕 学生像編

Vol.3〔秋号〕 学びのサポート編

Vol.4〔冬号〕 学びの実態編

教育評価分析センターとは

教育評価分析センター(CIR)は、高度教養教育・学生支援機構内に設置された業務センターです。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、その成果を各部局に提供することにより、本学の教育マネジメントの支援を行っています。

大学におけるインスティテュショナル・リサーチ(IR)は近年急速に展開しています。IRとは、学内の各種データを収集・分析してそれらを意味ある情報に変換し、大学経営に係る意思決定や教育研究等の活動を支援することです。CIRは、特に東北大学における教育・学習活動に係るデータの収集・分析を推進し、教育学習に関わる活動・環境・成果の質改善を支援することを使命としています。

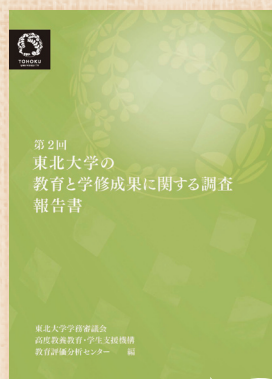
ウェブサイトについて

教育評価分析センター(CIR)では下記のウェブサイトにおいて各種調査結果データの公開、主催セミナーのお知らせや開催報告、教育評価に関するコラムなど本学の教育改善に資する情報をタイムリーに発信しています。

<http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp>

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。
入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。
[お問い合わせ]教育評価分析センター →→→ cir@ihe.tohoku.ac.jp



2015年
3月
実施

東北大学の 教育と学修成果に関する 調査報告書

東北大学の教育改善を図る取り組みの一環として平成24年度より調査開始。本学全体および各学部・研究科における学修成果がいかなる特徴を持ち、それがどのような背景に因るものであるかを中心に分析を実施。東北大学生の学修成果の現状を正確に把握し、将来を展望するための一素材としてご活用いただける内容となっています。

目次

第1部 調査結果全体に関する分析

1. 第2回東北大学の教育と学修成果に関する調査：調査概要と回答傾向
2. 東北大学で学ぶことの成果：学士課程卒業生による学修成果の認識
3. 学修成果の教育課程間比較

第2部 各部局の注目した知見とその解釈

第3部 資料(調査結果の概要、基礎集計表、自由記述、調査票)

[既刊] 第1回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2013年3月実施)



2016年
1月
実施

東北大学教員の 教育活動に関する 調査報告書

東北大学の教育改善を図る取り組みの一環として平成27年度より調査開始。本学教員がいかなる認識や方法の下で教育活動を展開し、どのような課題を抱えているかを明らかにすることで、本学の教育・学習活動の改善に活かすことを目的に実施。特に「時間外学修」と「アクティブラーニング」に焦点を当て現状を分析し、具体的な教育改善に向けた提言を含む内容となっています。

目次

- 「第1回東北大学教員の教育活動に関する調査」に基づく主な知見」

第1部 調査結果全体に関する分析

1. 調査概要と全項目の回答傾向
2. 授業時間外学修の認識と想定：45時間学修を前提とした授業設計
3. アクティブラーニングの取組状況：諸要因との関係

第2部 各部局の結果に対する所見

第3部 資料(部局別集計表、自由記述、調査票)

CIRとコラボレーションしませんか？



CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データを用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます [平成28年度の実績]

➡ 学務審議会 教務委員会

履修登録単位数の上限設定(CAP制)の議論に関連して、平成26年度卒業生の履修状況と成績について情報提供

➡ 理学研究科 教員

当該教員の担当授業について、成績と授業評価結果の関係を分析

➡ 高度教養教育・学生支援機構 教養教育改革WG

全学教育の現状及び成果、並びに機構授業実践調査と授業評価結果の関係について情報提供